

第 23 回(平成 30 年度第 5 回) 環境振動予測解析小委員会議事録

A. 日時 2018 年 12 月 17 日(月) 17:00~19:00

B. 場所 (一社)日本建築学会 建築会館 302 会議室

C. 出席者 主査 他 6 名

D. 提出資料

No.23-0 環境振動予測解析小委員会(第 23 回) 議題

No.23-1 第 22 回(平成 30 年度第 4 回) 環境振動予測解析小委員会 議事録(案)

No.23-2-1 環境振動運営委員会 2018 年度第 4 回議事録(案)

No.23-2-2 環境振動予測解析小委員会 活動報告(案)

No.23-3 環境振動シンポジウム原稿案 (環境振動設計指針策定 WG)

No.23-4-1 10 号館加振実験結果報告書

No.23-4-2 事例 2 の線材予測解析

No.23-4-3 10 号館加振実験結果報告書 追加資料

No.23-5-1 環境振動予測解析小委員会の成果物について

No.23-5-2 2018 年度 小委員会活動成果報告

E. 審議事項

1. 前回議事録 : No.23-1 提出資料番号を一部修正したうえで承認された。
2. 環境振動運営委員会より : No.23-2-1~No.23-2-2
 - ・主査より運営委員会の内容について報告 (次年度予算、測定分析マニュアルの確認、活動報告、設計指針の状況、来期体制、シンポジウム後の懇親会)
3. 環境振動設計指針策定 WG より : No.23-3
 - ・シンポジウム原稿を持ち寄って議論。主な議題は性能マトリクスや低減係数。
 - ・性能マトリクスの使い方 (建築主との合意形成) は WG で再確認する。
 - ・議論は継続中であり、設計指針の刊行までに整理する。シンポジウムでは現在の状況報告に留まる。
 - ・設計指針の講習会は 2020 年 6 月で調整中。
4. 事例作成の進捗、内容確認について : No.23-4-1~No.23-4-3
 - ・10 号館の測定結果について報告があった。
 - ⇒目次案通りの作成が難しく、付録的な位置づけで、実験結果を整理した。章立てや構成について意見交換を行った。
 - ⇒実測データ (波形) やモーダル解析の動画などを、学会ホームページ上からダウンロード (閲覧) できるようになると良いが、現段階ではそれが実現可能か判断できるまでに至っていない。
 - ⇒測定結果については、独立した章として報告書を作成する。各予測事例では、その中から予測の対象とした実測データを最初に説明し、その後に予測事例を記載する、という手順にする。

- ・構造設計用（線材）モデルによる予測解析結果が報告され、意見交換を行った。
 - ⇒前回までの誤りを訂正し、条件や結果もひと通り記載した。また、インピーダンス法や FEM モデルも含めて、考察を記載した。
 - ⇒小梁端部の境界条件なども記載してほしい。
 - ⇒モード図がわかりづらい。小梁のローカルモードが見られ、これが線材モデルの特性なのであれば、その旨の考察がほしい。
 - ⇒小梁ありモデルの応答がかなり大きいため、入出力を再度確認すること。

5. 成果物について：No.23-5-1、No.23-5-2

- ・主査より、この4年間の成果物のイメージおよび活動成果報告案について説明があり、意見交換を行った。
 - ⇒各事例、測定ともに小委員会に提出してきた資料から成果物をまとめる。
 - ⇒成果物として AIJ 大会に数編投稿したい。どのような構成で投稿できるか、担当する事例ごとにまとめて欲しい。
 - ⇒設計指針策定検討 WG から、この小委員会の成果を指針の付録に位置付けることも可能、と言われており、次年度も時間を割いて体裁等を整え、報告書としての成果物に仕上げる。設計指針 WG との連携が重要になるため、その動向も踏まえて報告書を作成する。
 - ⇒活動成果報告について、1つの建物に対して様々な切り口（加振源）を想定した予測事例が出来上がったと思われ、自己評価は A で良い。

6. 次回の議題、宿題

- ・大会の梗概案（編数や構成）
- ・各事例、測定結果ともに、成果物案を提示する。

7. その他

- ・次年度から新たな小委員会となることに対して、公募を行う予定。

F. 次回予定 2019年2月25日(月) 17:00～ 建築会館会議室

以上